NEWS CLIP & AV MATERIAL

ニュースクリップ & 映像教材

協会情報

■第51回「全国自作視聴覚教材コンクール」作品募集

日本視聴覚教育協会主催、文部科学省後援による標記コンクールでは、教育現場で活用されている自作視聴覚教材を募集する（22・23頁参照）。

＜部門＞１小学校（幼稚園及び保育所を含む）、２中学校、３高等学校、４社会教育の各部門。

＜種別＞映像教材、デジタルコンテンツ、紙しばい等。

＜表彰＞最優秀賞（文部科学大臣賞）各部門各１点、部門通じて優秀賞８点、入選10点以内。

＜締切＞令和７年６月６日（金）

＜問い合わせ先＞（一財）日本視聴覚教育協会

TEL　03-3431-2186

文部科学省情報

■「すぐにできる校務DX～GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト～」動画公開

文部科学省では、学校DX戦略アドバイザーの解説により、標準的なGIGAスクール環境で、すぐにできる校務DXについてを紹介する標記動画を公開。本動画は、「文部科学省/mextchannel」の「すぐにできる校務DX」の項を参照のこと。

＜問い合わせ先＞文部科学省初等中等教育局GIGA StuDX推進チーム

MAIL　gigastudy@mext.go.jp

AV情報

■サイエンスティームにて補助教材「生成AI活用ガイド」公開

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「サイエンスティーム」では、標記補助教材を公開した。「生成AI」をテーマとして、STEAM教育を構成する分野の知識や経験を重視。基礎知識、指導方法、倫理的視点まで幅広く扱っている。主な掲載内容は、小学校編・中学校編・高等学校編ごとに、「生成AI活用ガイド」「指導案」「レッスンスライド」「ワークシート集」「付録／地域（学校）でつくるオリジナル活用ガイドライン、校務活用事例等」など。JSTのホームページより「サイエンスティーム」「STEAM教育スターターキット」にアクセスのこと。

＜問い合わせ先＞JST総務部ポータル課サイエンスティーム事務局「お問い合わせフォーム」まで。

■New Education Expo 2025開催

「学びの未来を、共に拓く」をテーマに、New Education Expo実行委員会主催の標記イベントが２会場で開催される。

＜日時＞令和７年６月５日（木）～７日（土）（東京会場）、６月13日（金）・14日（土）（大阪会場）２会場とも、9：30～18：00 ※東京会場開催のセミナーを札幌、仙台、名古屋、福岡のサテライト会場に配信予定。

＜会場＞東京ファッションタウンビル（東京都江東区有明3-1）、大阪マーチャンダイズ・マートOMM（大阪市中央区大手前1-7-13）

＜内容＞基調講演、セミナー、新しい教材・教具、「教育の情報化」に関連したシステム・IT関連、環境対応の学校設備品等の展示、公開授業等。

＜問い合わせ先＞New Education Expo実行委員

協会情報「令和7年度 教育映像祭 優秀映像教材選奨」募集開始

日本視聴覚教育協会主催、文部科学省、毎日新聞社後援による標記選奨では、「教育に利用される映像教材の制作と利用の向上進展を図る」ことを目的に教材を募集する。
＜部門＞ １小学校（幼稚園含）、２中学校、３ 高等学校、４社会教育（家庭生活向・市民生活向）、５職能教育、６教養。
※部門１～３においては、【教育映像】（映画・DVD等）及び【教育デジタルコンテンツ】（コンピュータ ソフトウェア）の別により審査を行う。部門４～６においては、【教育映像】のみとする。
＜参加条件＞ 令和６年６月１日～令和７年５月31日までに完成した作品。
＜表彰＞ ○最優秀作品賞（文部科学大臣賞・日本視聴覚教育協会会長賞）○優秀作品賞（日本視聴覚教育協会会長賞）
＜締切＞ 令和７年６月２日（月）までに、参加申込書と併せて、作品を送付のこと。詳細は、下記を参照。
https://www.javea.or.jp/fes/index.html
＜問い合わせ先＞（一財）日本視聴覚教育協会 優秀映像教材選奨事務局
TEL　03-3431-2186

会事務局　（株）内田洋行教育総合研究所内
TEL　03-5634-6397

コンクール・研究助成情報

■「映文連アワード2025」作品募集

（公社）映像文化製作者連盟では、短編映像業界の活性化を図るとともに、次世代を担う新しい才能を発掘し、映像業界のインキュベータとしての機能を担うことを趣旨に作品を募集している。
＜募集部門＞①コーポレート・コミュニケーション（企業紹介、企業広報、施設紹介等の映像）、②ソーシャル・コミュニケーション（教育教材、科学技術、技術記録、学術・研究、文化・教養、展示館等の展示等の映像）、③パーソナル・コミュニケーション（映像製作を志す学生及び個人・グループが製作した作品で自由課題を想定）の３部門。
＜応募要件＞令和６年４月１日～令和７年３月31日までに完成した作品。作品の上映時間は原則として60分以内。メディア・手法は、映画、ビデオパッケージ、テレビ番組、展示映像、アニメーション、Web等。参加料は、１作品につき、一般25,000円、学生8,000円。
＜賞＞最優秀作品賞（グランプリ）、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞各１点、優秀賞各部門５点以内他。
＜締切＞令和７年５月31日（土）
＜問い合わせ先＞（公社）映像文化製作者連盟映文連アワード係　TEL　03-3662-0236

■NHK「日本賞」作品募集

NHKでは、世界中の教育コンテンツの質の向上に貢献すること、社会と文化の相互理解を促進することを使命として、標記コンクールを実施する。
＜資格＞応募作品を制作・放送する、または著作権を有する放送事業者／配信事業者、映像制作プロダクション、コンテンツ制作プロダクション、教育研究機関、非営利活動団体および非政府組織等など。個人による応募は受付けない。なお、１機関が応募できる作品数は最大で計４作品。
＜部門＞１幼児向け、２児童向け、３青少年向け、４一般向け。
＜応募対象＞テレビ番組、映画、ビデオ作品（尺60分以内）、デジタルメディア作品（ウェブゲーム、ゲーム、アプリケーションソフトウェア、クロスメディアコンテンツ等）。
＜賞＞グランプリ日本賞、各部門最優秀賞、各部門優秀賞他。
＜締切＞令和７年６月３日（火）日本時間23：59
＜問い合わせ先＞日本賞事務局
MAIL　s04603-japan-prize@nhk.or.jp

ブックレビュー

私の航跡
メディアと教育のあいだ

宇佐美昇三　著
（株）一藝社　発行
2025年3月25日発行
A5判234ページ
2,600円（税別）

1960年、羽田空港に降り立った原爆の父オッペンハイマーにマイクを突き出し、日本の犠牲者について真正面から問うた若きNHK国際局報道部の記者がいた。誰あろう、後にわが国の視聴覚教育界の知の巨人とも称すべき存在となった宇佐美昇三その人である。

本書は氏が齢90にしてまとめた自分史とエッセイ集。戦後まもないNHKの制作現場から放送文化研究所、そして大学教員としての実践と研究の航跡は、メディア教育史の貴重な記録であるとともに、淡々とした筆致の間に豊かな薫陶が滲んで胸を打たれる。

メディアと民衆が紡いできたさまざまなエピソードを見つめる眼差しがあたたかい。貴重だったテープレコーダーを譲ってくれた白血病の友人。交番に勤務しながら向かいのラジオ店に「カムカム英語」の放送の時間帯だけ音量をあげてもらって英語を学んだ警官。あるいは米国留学中、貧困生活ゆえレストランで白飯に持参した塩だけふって食べていたら、さっとカレーをかけ足早に立ち去ったアジア系の給仕。きっと宇佐美メディア学の根幹はそうした人々によってつくられたのだ。

その真髄のひとつが「レッセ―ジ理論」。メディアの送り手が意図したとおりには受け手は理解しないことをメッセージとレシーブの造語で論した重要な学説だが、思い込みを強烈に戒めるとともに、柔軟に物事の本質を見つめることの知的興奮、その楽しさを教えられる。本書後半はそんな宇佐美流の変幻自在な探求心のままに、主には海と船にまつわるあれこれを、頭の切れる探偵がねちっこくも科学的合理性のもとに解明していくような、ときに抱腹絶倒のエッセイ集。

航跡は船の後ろに描かれるものだが、読者にはなお舳先の向かう先が楽しみだ。

（東京情報大学講師　伊藤敏朗）

文部科学省選定作品

■３月選定　紙　紙しばい　D　DVD

「さよなら　あんころもち　またきなこ」紙12枚＜幼稚園、小学校低学年／幼児、教養（株）童心社

「はるはる　ぶっぶー」紙　８枚＜幼稚園／幼児、教養＞（株）童心社

「わたしたちのくらしと社会を支える鉄～鉄をつくる製鉄所～」D22分＜小学校高学年、社会／少年、教養・情操（産業紹介）＞（株）放送映画製作所東京支社

「どう活かす？女性支援新法　女性の人権侵害を防ぐ」D21分＜中学校、特別活動／高等学校、特別活動／少年・青年・成人、地域社会生活（人権）＞（株）映学社

「ジェンダー平等への挑戦　誰もが生きやすい社会に向けて」D21分＜中学校、特別活動／高等学校、特別活動／少年・青年・成人、国民生活（男女共同参画社会）＞（株）映学社

「わたしたちのお産ダイアリー」D54分＜青年・成人、教養＞歌島舎

「ハッピー☆エンド」D85分＜成人、一般非劇映画＞まほろばスタジオ

映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/

※本欄掲載のイベント開催等の最新情報は、主催者＜問い合わせ先＞に、ご確認ください。